

## 【令和元年度】

### 市民と市長と気楽にトークでの意見交換についてご紹介します。

市民の方から	市長から
旧柳井商業高等学校跡地に複合図書館を建設する計画は今どうなっているか。また、設計に若者の意見が反映されていないように感じる。若者が帰ってきてくれるような生活環境をつくるのも行政の仕事では。	今は一旦立ち止まり、議会と協議していこうという状況。市民の皆さんへの情報発信が不足していると感じている。 設計については、意見交換会やワークショップなどを通して子育て世代や高校生、小学生等の意見も取り入れている。複合図書館のような若い方が魅力を感じる文化施設があるということも、柳井市にとって大きなポイントになると考えている。
柳井市の歴史資料を大切にしてほしい。今は管理している場所がばらばらなので一括して管理したらどうか。	現在の柳井図書館内に歴史資料を展示したり、併せて生涯学習・スポーツ推進課を市役所から移すことによって、サンビームやない、図書館、体育館を含めた一体的な施設管理をしていくことも一つの案として検討している。
柳井市はスポーツのまちという一面がある。スポーツの歴史を周知する場所を複合図書館に作ってみてはどうか。	複合図書館内のギャラリースペースでの展示や、スタジオスペースを使つての講演や講座、関連図書の展示閲覧など様々な取り組みができると考えている。
体育館の耐震補強や空調設置についてどのように考えているか。	現行の体育館については、どのような耐震補強ができるか、また、床の張替え、照明のLED化、屋根の補修、空調の整備なども含め、具体的に検討している状況である。 併せて、旧柳井商業高校跡地の一部に駐車場が整備できれば駐車場不足も解消できると考えている。
複合図書館に子育て支援に特化した機能を持たせたら良いと思うがいかがか。	複合図書館は絵本や児童書、読み聞かせスペースの充実などにより、子育て世代の利便性を高めることができると考えている。それらを活用しボランティア団体や子育てサークルなどを含めてどのような活動ができるかが重要である。
柳井市は図書館ではなく他にやらなければならないことが沢山あると思う。図書館の建設はよく考えるべきである。	行政は多岐にわたる分野において、様々な問題解決に取り組んでいる。旧柳井商業高校跡地の利活用においても、駐車場不足や弓道場の老朽化といった問題の解決と併せて取り組んでいるところである。 柳井市はスポーツのまちとされてきたが、市民の皆さんの文化的欲求に応えることも当然あって良いと思う。

市民の方から	市長から
複合図書館ができれば今より本は増えるか。	現在の柳井図書館の蔵書数 9 万冊を 15 万冊まで増やす計画である。
複合図書館は交流人口の拡大に非常に有益だと思う。白壁の町並みややまぐちフラワーランドと観光面での連携を図ることも可能ではないか。	複合図書館で市内の観光地やランチができる飲食店を紹介するなど、本だけではなく様々な情報を発信していくというイメージを持っている。また、建築家の谷尻誠さんが複合図書館の設計を手掛けることにより、複合図書館自体が観光地の一つになると考えている。
やまぐちフラワーランドの今後について情報が無いので心配している。	山口県では行財政構造改革の取り組みの一つとして「公の施設の見直し」が進められており、やまぐちフラワーランドについては、地域振興の観点から柳井市へ移管したほうが効果的な活用が図られるのではないかと話をいただいた。 市としては、やまぐちフラワーランドは県全体の花き振興を図る機能を有する拠点施設であることを踏まえ、引き続き県に対し、その役割を担っていただくよう強く申し入れたい。 一方で、やまぐちフラワーランドは地域の活性化に必要不可欠な施設であることから、より効果的な施設の利活用方策等について今後も県と協議を続けていきたい。
短時間の雨量が 300mm に達するような雨が降った場合どうすればよいか。	柳井市では令和 5 年度までの 5 年間で約 26 億円を投じて東土穂石雨水ポンプ場の整備を進めている。 しかし、この度の令和元年東日本台風により、観測史上最大となる 72 時間降水量が 1000mm を超える豪雨となって関東地方で降った。これからはこういった想定外の豪雨に対応していく必要がある。今後、土穂石川の拡幅工事も行われるが、これで万全ということではない。 住民の皆さんが自主防災組織を立ち上げることによって、地域でもしものときにどう避難するか、どう助け合うかという仕組みを作り、実践していくことが大切だと考える。
伊保庄、阿月を通る県道の工事が進んでいないが、今どのような状況なのか。	工事は進みつつあるが、より早く進めていただくようお願いしていきたい。また、国道 188 号バイパスも整備されれば利便性はさらに高まる。それらの工事の進捗を広報などでお知らせしていきたい。
平郡島行のフェリーへぐりの更新については、島民が減っているのでは出来ただけ早く計画してほしい。	フェリーの更新は人口減により今の規模のフェリーの建造が難しくなるのではとの心配からのご指摘だが、今だから立派な船ができるわけではなく、島民にとって必要な機能などについて島民の皆さんと意思疎通を図りながら検討していきたい。使えるまでは利用していきたい。
市長は「柳井で暮らす幸せ」と言われているが、住民にとっての「柳井で暮らす幸せ」はどのようなものだと考えるか。	「柳井で暮らす幸せ」はこういうものだとお示しするのではなく、ここで一緒に考えていきたいと思いますという主旨で申し上げている。 私自身は人との繋がりが重要だと考えるが、市民の皆様がそれぞれに考えたり、またみんなで一緒に考えていきたいと思いますという思いである。